

Go Beyond～今の自分を超越てゆけ！～

校長漫筆記

令和8年7月15日
姫路市立高等学校
校長通信 第15号
文責 平山智樹

「教職員の奮闘」二つの誇りを繋ぎ、未来を創る

現在、本校は源流校の一つである「姫路高等学校」と同一敷地内で同居するという、非常に調律の難しい、しかし極めて実り豊かな移行期を迎えています。1年次生360名は「姫路市立高等学校」の記念すべき第1期生、2・3年生440名は「姫路高等学校」の在生として、日々切磋琢磨しています。



「普通科単位制・服装自由・1学年360名」という新しい柔軟な仕組みを持つ姫路市立高校と、「普通科学年制・制服あり」という規律ある伝統を持つ姫路高校。この、仕組みも文化も大きく異なる二つの学校が、今、同じ空間で教育活動を行っています。

この誰も経験したことのない新しい挑戦を、現場で力強く支えてくれているのが、教職員たちです。先生方は、両校の「兼務発令」という厳しい体制の中、校則や仕組みが違う二つの学校の生徒たちが決して混乱を来さないよう、細心の注意を払いながら日々の指導にあたっています。先日の合同文化祭や、日々の部活動の成功は、先生方が対話を重ね、知恵を絞り、生徒一人ひとりに寄り添い続けてくれた結晶にほかなりません。

教職員の苦労は、事務的な二重業務に留まりません。最も心を砕いているのは、生徒たちの「心」の育成です。

2・3年生（姫路高生）に対して、これまで築いてきた歴史、先輩としての誇りとプライドを傷つけることなく最後まで全うさせること。1期生（姫路市立高生）に対しては、新しい学校を自分たちの手で創り上げていくんだという気概と誇り、未来への使命感を醸成すること。

この、一見すると相反するようにも思える二つの感情を、先生方は見事に調和させてくれています。良き姫路高校の文化をリスペクトし、伝統をバトンとして受け継ぎながら、新たな姫路市立高校の歴史を一步一步、生徒と共に作り上げていく。そのプロセスの中で、先生方が見せる情熱と愛情には、校長として頭が下がる思いです。

学校の統合とは、単に建物や名前が変わることではなく、異なる文化が出会い、新しい価値を生み出す、創造的でエネルギーのいる営みです。その最前線で、生徒たちの動揺を最小限に抑え、それどころか「新しい学校って楽しい！」「この学校の先輩でよかった！」と思わせてくれている教職員を、私は誇りに思います。

皆様、どうかこの新しい挑戦の坂道を一步一步力強く登っている生徒たち、そしてそれを支える教職員に、今後ともご理解と温かい励ましをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。